

上津 直子 氏の学位審査結果の要旨

主査：金子 一成

副査：楠本 健司、谷川 昇

日光蕁麻疹は、日光曝露直後から露光部に一致して紅斑や膨疹、掻痒が出現し、その後色素沈着を残さず消退するまれな物理的蕁麻疹で、重症例ではアナフィラキシーショックを起こすこともある。蕁麻疹を誘発する作用波長は患者によって異なり、可視光線から紫外線に及ぶ。また一部の症例で症状を増強する波長（増強波長）や抑制する波長（抑制波長）が存在するが詳細は不明である。

申請者は増強波長を有する日光蕁麻疹患者 11 例に対して光線照射テストを含む詳細な検査を行った。その結果、①性差や好発年齢はない、②アトピー素因も多くない、③作用波長は可視光線のみ例や紫外線から可視光線におよぶ例など様々である、④増強波長も紫外線や可視光線のいずれかで起こる例や複数の波長で生じる例など様々である、④増強波長による症状増悪は、作用波長の前照射で生じる場合と後照射で生じる場合がある、といったことを初めて明らかにし、臨床上重要な知見を見いだすとともに、光線照射テストの重要性を証明した本研究は十分に学位に値するものと考えられる。